

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600129		
法人名	社会福祉法人 富門華会		
事業所名	安平町認知症高齢者グループホーム さかえ		
所在地	勇払郡安平町早来栄町133番地65		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員は「ゆっくり・楽しく・のんびり」の基本理念の下、グループホームは生活の場であるという認識を持ち、同居人的な意識を持って介護を行っている。</p> <p>職員に対しては年に1回以上の研修参加を推奨しており、ケアの理念の再構築や新しい情報を得ることにより個人のスキルアップ又は報告会の実施によりホーム全体のスキルアップを図っている</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho.net/hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600129&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道立社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、安平町の指定管理施設となっている。緑が豊かな中に建てられていて共用フロアには木材が多く使用され、温もりと安らぎの家庭的雰囲気空間の中、「ゆっくり、のんびり、楽しく」を基本理念に平均年齢89.6歳の利用者の方々、穏やかな表情でのんびりと過ごされている。高齢で介護度の高い利用者が多いが、100歳を越える利用者が「ぞうり」のキーホルダーを作り教育委員会を通じて新入学生に寄贈して喜ばれるなど、1人ひとりの個性を上手に引き出し、生き生きとその人らしい生活が出来るようサポートしている。職員も個性と能力を最大限に引き出せるよう得意分野に分けて担当委員制を取り入れ、環境、衣服、排泄、転倒防止などの担当委員は現状把握と創意工夫をして介護の質のレベルアップに繋げている。管理者は職員教育に力をいれ札幌会場の研修会にも多くの職員が出席して学び、出席者は職員に報告して研修内容の共有を図っている。運営推進委員会には消防署職員が出席して防災関連についての討議がなされ充実した委員会になっている。また退職する職員は少なく利用者とは職員は馴染みの関係が継続されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域密着」という言葉は入っていないが、地域の行事への参加や施設行事への地域住民の参加も呼びかけ、地域の一員であるということを認識している	「ゆっくり、のんびり、楽しく」の理念は利用者の様子から実践されていることが見受けられる。職員はマンネリ化にならないよう時々理念を振り返り、再確認して支援している	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなどを地域に開放しているが、日常的な交流は挨拶程度である	近隣の同法人施設と合同の夏祭りに参加したり、町の文化祭を見学、小学生の総合学習訪問、なじみの人の来訪など地域の人と交流する機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は具体的な活動は行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3～4回のペースで実施。話された意見や要望をサービスの向上につなげるよう努めている	会議は定期的に開催して自治会長、町の職員、家族、地域の代表者も多く出席して運営状況などの意見交換をして充実した会議となり運営に活かしている。11月からは消防署職員の参加もあり防災などのアドバイスも受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の指定管理施設であり、問題はない	当事業所は、安平町の指定管理施設として事業所の実状などを伝え連携を密に図りながら、ケアサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になることのない様に個々のケースにより検討している。玄関の施錠は夜間のみ	身体拘束の研修会出席者は報告して理解の共有を図っている。外出傾向の利用者には「なぜ」の視点で考え、拘束にならない工夫をしながら見守り、支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員の報告などにより研鑽している		

安平町認知症高齢者グループホームさかえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に実施はしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時のみならず、随時必要な場合には話し合いを行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を作ってはいるが家族などからの意見や要望を聞きだすことはあまり出来ていない	毎月発行の「さかえだより」に個人々の1か月の様子を書き、家族に郵送し、家族来訪時には話し合いが出来るよう努めている。町内が同じで馴染みの家族もいて卒直な声を聞くこともある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は会議などを通して意見の交換を行っているが、運営者(施設長を含む)とは直接話しをする機会が少なく、管理者が職員の意見や考え方を伝えている	管理者は職員が能力を引き出せるよう役割を決め、話し合う機会を設けている。職員からでた意見は大事に受け止め、ケアのレベルアップに繋げて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備に努めてはいるが、職員との間に若干の認識のずれはある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年1回以上の外部研修に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は北海道グループホーム協会のブロック理事を務めており、他施設との交流の機会はある		

安平町認知症高齢者グループホームさかえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人調査の様式を作成し、それにより本人把握に努めている					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みの段階からケアマネなどを通して全般的な相談業務を行っている					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネとの連携を密にして対応している					
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であるという認識が出来ている					
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの立場で家族介護を考えがちになる					
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントにより馴染みの人や場所を把握し、途切れないように配慮している					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	狭い空間の中での生活なので人間関係が複雑にならぬよう配慮している					

安平町認知症高齢者グループホームさかえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム側から意識的に連絡を取ることはないが、退所した家族からの連絡や相談には応じている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を採用して意向の把握に努めているが、困難なケースの場合には個別に職員間で検討している	センター方式を用いて「私のプロフィール」を作成し日々の関わりのなかで希望や意向を汲み取り把握して記載している。職員は本人本位の視点に立って話し合い共有して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前に事前アセスメントを行い生活歴などの把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌の書式や記入方を改善し総合的に把握できるよう工夫している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を記入しやすい場所(日誌の中)にし介護計画と現状のずれをわかりやすく対比しやすいようにしている	「生活アセスメント表」を作成して把握し、家族の意見も聞きプランの素案を作成、検討会議で最終的なプランを作成している。日々の記録とモニタリングは連動できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェックポイントを随時確認しながら記録に記入し、情報を共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	平成23年1月よりシュートステイを実施予定			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用している事はない			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての入居者さんがそれまでのかかりつけ医を継続している	入居後も従来のかかりつけ医の往診をうけている。他科受診は町内受診の場合は通院支援、町外は家族が送迎受診をして健康管理に努めている。		

安平町認知症高齢者グループホームさかえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師や訪問看護師はいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域内に入院可能な医療機関はなく、入院した場合の情報交換は充分とはいえない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携が出来ていないのが現状であり、ターミナルケアの実施は現状では困難と認識している	町内の医療機関の関係上、終末期介護は出来ないのが現状である。利用時に家族に説明して納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命方の講習を毎年ホーム内で実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は毎年実施しているが災害時や地域と連携した訓練も未実施	避難訓練は消防署立会い訓練と自主訓練を行なっている。全職員が普通救命救急講習を受講して災害に対する意識は高いが地域住民との連携訓練までには至っていない。	今後は災害時に備え火災を出さない為の点検項目をあげチェック体制を整える事や、地域住民の協力体制構築のための取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気や職員としての垣根を持たないようにとの考え方の延長で時折行き過ぎた対応になることもある	運営理念の「人権と尊厳を守る」の意味を職員は理解していてプライドを傷つけないよう配慮して対応している。人権関連の研修会出席職員は研修報告をして全職員に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力や表現力の変容を職員間で確認しながら入居者さんの意向や希望を汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの様子を確認しながら日課表に縛られることなく柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感も考慮しながら配慮している		

安平町認知症高齢者グループホームさかえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人によりできることや好きなことを行ってもらうようにしている	利用者との会話の中で希望食を把握し献立に取り入れている。利用者は食後は下膳など出来ることを積極的に行っている。献立は同法人の栄養士から塩分のバランスやカロリーのアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に法人内の栄養士に確認してもらい摂取カロリー量を把握し、水分摂取量の記録により確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	食後ではなく起床時と就寝時にケアしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁パンツ・紙パンツ・髪パットの使用を入居者さんの状態を見ながら、自尊心と羞恥心を考慮して検討している	排泄時は声かけの仕方に配慮してトイレ誘導しているがトイレが5カ所あり誘導がスムーズにできる。職員は入居者の排泄の把握に努め自立にむけた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認と、医師と相談しながらの本人にあった便秘薬の服用を考えている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回(火木土)の入浴日の決められた時間内で本人の希望に添うように対応している	週3回を目途に入浴支援をしているが入浴拒否する場合は介護職員を変更するなど臨機応変に本人に即した入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態や生活習慣を考慮して配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を中心に薬剤の変更や追加などがあつた場合その都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や力を考慮した役割の設定や気晴らしを設定している		

安平町認知症高齢者グループホームさかえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則的には希望に添うようになっているが、天候・健康状態・職員数などにより、直ぐには対応できていないことも多い	花壇や菜園の作業、日光浴、ドライブ、買い物など外出する機会を多く取り入れ支援している。スプリンクラー工事の時には温泉の一泊旅行等も行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない入居者さんの小遣いはホームで管理。自己管理できる人についても間接的な管理は必要であり、また、歩いていける距離には店もなく本人が使う機会も限られている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に規制はしておらず、希望があったときには速やかに対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんの個性や相性を考慮して空間を設定し、安心してすごせるように配慮している	木材を多く使用している共用空間には利用者や職員の手作りののれんが下がり、観葉植物やほうき、塵取りがあり家庭的雰囲気の中で昼寝やテレビ観賞などで個々の利用者が居心地よく過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に一人になれるようなスペースはない		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に配慮しながら、馴染みの物を使用するように家族にも協力してもらっている	居室は利用者の馴染みの調度品が自由に持ち込まれ、その人らしい居室となっている。居室で趣味のぞうり作りをしている利用者もいて個性的で本人主体の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせて居室やトイレ、食事の席などを理解してもらえるよう配慮している		